



●前期に続き受注増加と強気な見通し

●資補助金で省エネ・断熱工事増加

コロナ禍からようやく抜け出した感じのする昨今ですが、3月末のWBCでの侍ジャパンの優勝、それに勇気づけられたように市場も元気が出てきたように感じます。今回の「四半期 住宅リフォーム市場動向・景況感調査」は、毎回のアンケートと違い景況調査のみとなり、ホームページへの掲載となります。

リフォーム市場はコロナも明けて大変忙しい状況となっていますが、一方で資材の高騰、人手不足はますます厳しくなりつつあります。また今年10月から始まるインボイス制度、来年の残業時間の上限規制などは、住宅・リフォーム業界にとっても対応が急がれます。そうした状況の中で令和5年の新年度が始まりました。ジェルコ会員企業の今年初めの業績、4月以降の見通しはどうか。会員企業の回答を見ますと、受注動向も非常に良い状況が続いているようです。今回

は会員74社と多数の皆様から回答を頂きました。大変ありがとうございました。

1. 会員企業の年商、社員数などについて

人の動きもコロナ前に戻り、今年のゴールデンウィークでは観光地が大賑わいとなった。住宅関連も1-3月期に続き好況が続いており、住宅、リフォーム業界でも3月期の決算では過去最高となったところもあるようだ。ただ飲食、旅行業界に限らずコロナ後の人手不足はますます進行しており、資材高騰も続いている。ジェルコ会員の状況はどうだろうか。

今回の調査結果を見ると、今年[1-3月]期は、実績での「増加」回答が件数・金額とも全体の43.8%、「変わらない」が30数%となり、年初の予想に大きく反して大変好調であった。

会員企業のプロフィール（年間売上高、社員数、平均粗利益率）

会社情報（平均）						
	第30回 (R3.12)	第31回 (R4.3)	第32回 (R4.7)	第33回 (R4.9)	第34回 (R4.12)	第35回 (R5.4)
男	11.7	11.1	12.6	7.7	12.0	9.5
女	7.1	6.1	7.8	5.3	7.3	8.1
資本金	2,322	2,461	2,278	2,733	2,244	2,549
年間売上高（万円）	88,845	49,196	63,802	38,833	50,548	44,938
平均粗利益率（%）	27.6	28.6	27.1	27.3	28.1	28.0
代表者年齢平均	58.2	57.3	56.0	56.7	59.2	56.2
中央値						
	第30回 (R3.12)	第31回 (R4.3)	第32回 (R4.7)	第33回 (R4.9)	第34回 (R4.12)	第35回 (R5.4)
男	4.0	4.5	5.0	4.0	4.5	4.0
女	3.0	3.0	3.0	3.0	4.0	4.0
資本金	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
年間売上高（万円）	17,614	18,000	24,293	20,000	20,000	18,000
平均粗利益率（%）	28.0	28.0	28.1	29.0	28.0	28.0
代表者年齢平均	60	56.0	55.5	55.5	59.0	55.0
最頻値						
	第30回 (R3.12)	第31回 (R4.3)	第32回 (R4.7)	第33回 (R4.9)	第34回 (R4.12)	第35回 (R5.4)
男	2	2	2	2	2	3
女	1	3	1	2	2	1
資本金	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
年間売上高（万円）	7,000	18,000	20,000	10,000	50,000	15,000
平均粗利益率（%）	25.0	25.0	30.0	30.0	28.0	30.0
代表者年齢平均	60	64	64	64	65	50

今回の調査(4月)の会員企業の社員数、売上高、平均粗利益率等は前頁の表の通りである。

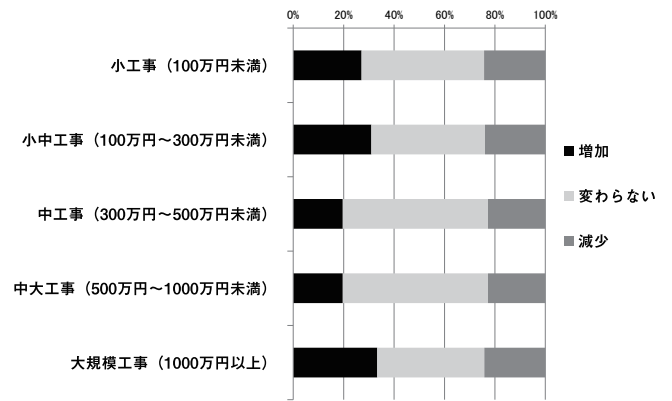
今回のアンケートでは、従業員数の平均は男性が9.5人(前回12人)、女性が8.1人(前回7.3人)。年間売上高は平均で4億4938万円(前回5億548万円)。平均粗利益率は28.0%(前回28.1%)であった。社員数の中央値を見ると男4.0人、女4.0人で前回とほぼ同じ。売上高の中央値は1億8000万円で前回より2000万円低かった。粗利益率は前回ほぼ同じだった。

2. 会員各社の今後の景況感について

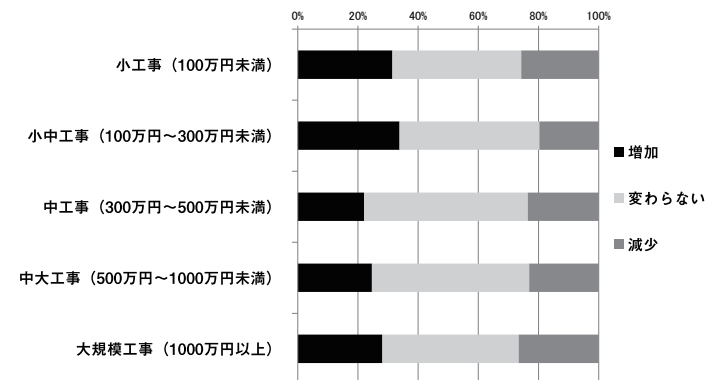
今期は幾分円高が収まったとはいえ、エネルギー価格の高騰、物価上昇、人手不足、資材高騰は続いており、その中で受注増の増大が続く状況となった。

今年[4-6月]期の見通しでは、前期[1-3月]期の好況を反映するとともに、連休明けの新型コロナの2類から5類への変更により、規制のない活動環境となったことなどで、これまでにない積極的な見通しとなっている。受注件数の見通しでは、「増加」、「変わらない」とする回答はともに40%を超えた。前期[1-3月]の好調を維持し

工事規模別の受注件数の増減

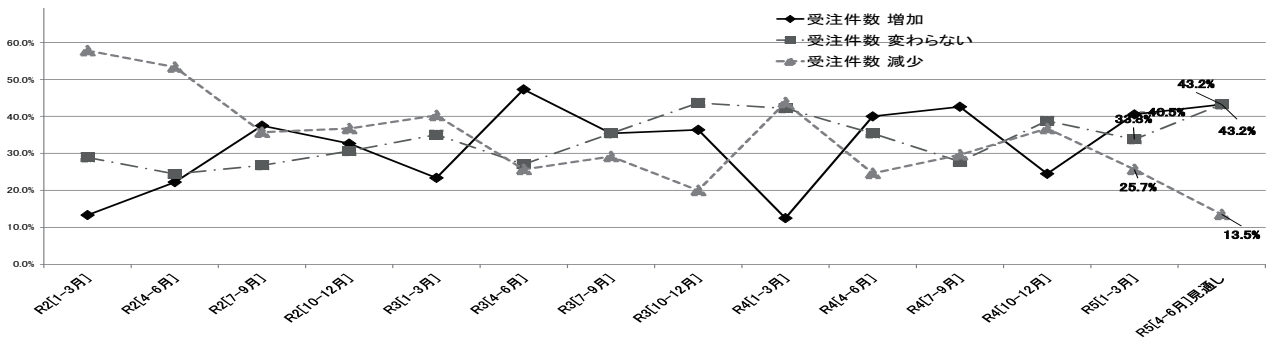


工事規模別の受注金額の増減

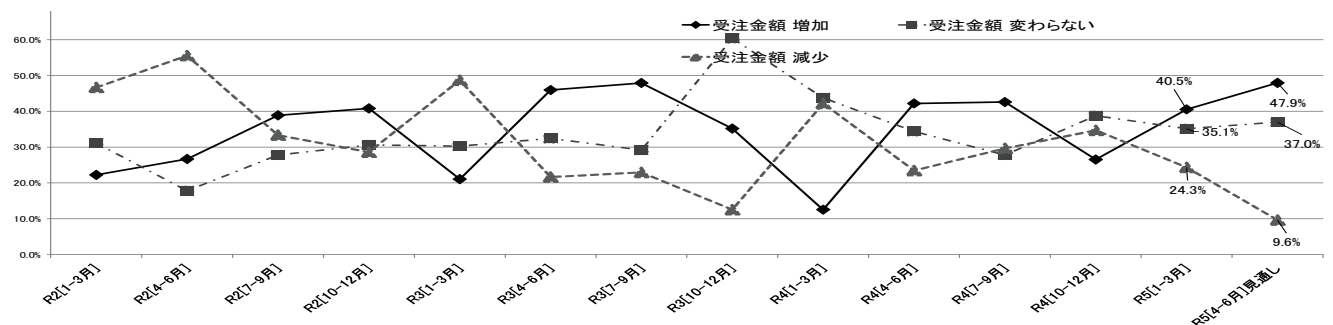


更に増加すると期待。受注金額でも「増加」が47.9%で、「減少」回答は1割を切り9.6%、こちらも期待値の高い見通しとなった。

四半期毎の受注推移 (件数)



四半期毎の受注推移 (金額)

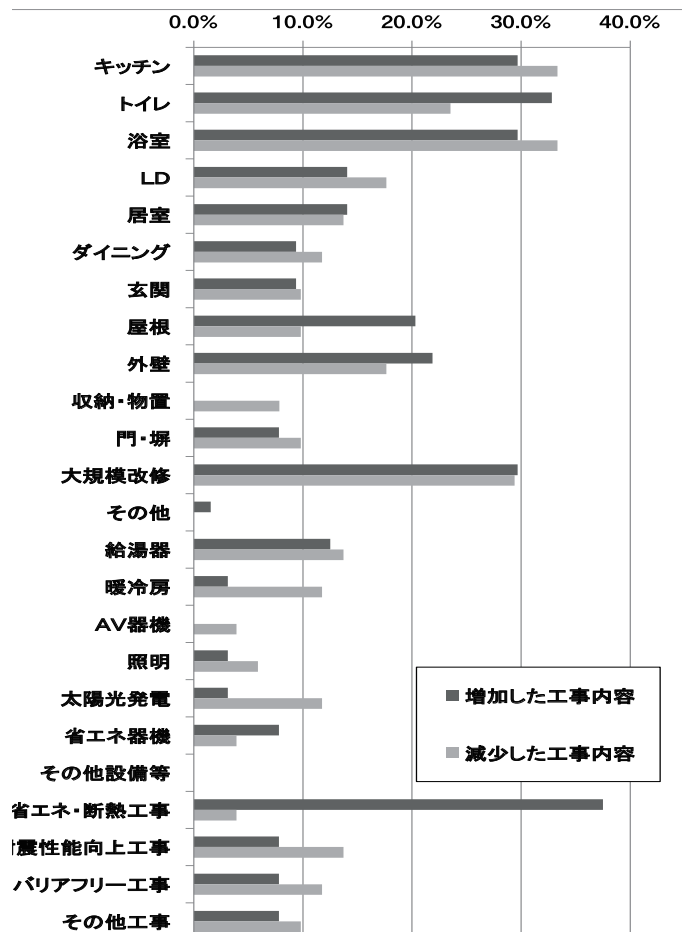


前期 [1-3月] の工事規模別で「増加」が目立ったのは「大規模工事 (1000万円以上)」で、受注件数で19.0%から32.4%へ、金額で23.3%から28.1%へと大幅に増加した。逆に小工事は「増加」とするところが少なくなった。

工事部位別の増減では、リフォーム定番の水回り部位を始め居室、外回りと全般的に「増加」と「減少」の回答が同程度となった。その中で目立ったのは、「大規模改修」で「増加」と「減少」の回答が共に3割となった。建築費が高騰する中で受注減となったところ、コロナ明けの消費者のリフォーム意欲を捉えての受注増となったところが拮抗している状況が読み取れた。

また、これまであまり部位別の増減が目立たなかった「省エネ・断熱工事」について「増加」と回答したところが37.5%と急増した。個別の工事で「内窓」、「二重サッシ」、「窓」、「サッシ工事」などの「増加」を回答したところもあった。電気料金等の高騰から断熱・省エネルギーフォームに需要が増大するとともに、本格化した「先進的窓リノベ事業」補助金等もあり、これらの部位が大幅に伸びているようだ。

[1-3月] 期に増減した工事内容



今後期待される工事規模について

